



女性のまなざしでしなやかな社会を

WE

特定非営利活動法人
ウィメンズアイ

2020年度活動報告書・決算報告書
2020年6月～2021年5月

2020.6-2021.5

ローカル女子と未来をひらく プロジェクト

～草の根女性のエンパワーメント

東北被災3県をはじめとしたローカルで草の根の活動をする若年層の女性たち（ロカ女）のエンパワーメントは2年目を実施。COVID-19の感染拡大を受け、当初予定していた顔を合わせての集合研修や講座をオンラインにシフトし、地域的な広がりも生まれました。

*これらの活動にはシャネル財団の助成をいただきました

講座～自分を導く知識をつける学びの場

zoomを活用してゼミや講座、ワークショップを開催。ゼミでは、世界のローカリゼーションの潮流と持続可能な地域づくりの下地となる考え方などを学びました。東北、特に宮城を中心とした参加者の中に、四国、中国、九州の参加者も加わったほか、東京の大学生の参加もあり、活発な意見交換が行われました。参加者からは「視野が広がった」「多くの参加者が同じ思いを持っていることに驚いた」などの声が上がりました。

一般向け公開講座では、食、暮らし、いのちをめぐって各分野で活動する先輩女性たちからのインプットとエール

をいただきました。ワークショップでは、2019年のグラスルーツ・アカデミー福島でファシリテーターを務めたアメリカ・パークレー在住のアクティビスト齊藤由香さんとオンラインでつなぎ、コロナ渦中での思いを語り、難局の中できることを頑張ってきた互いを励まし合いました。

一方、女性たちが自分の心と体の仕組みを知り、自分をケアし続けレジリエンスを高める大事さを伝える「オトナ女子のすこやかづくり講座」を連続開催。助産師をはじめとする講師に実践的な知恵を教えてもらいながら、参加者同士も交流し情報交換を行いました。

●データ *全てオンライン開催

・ロカ女ゼミ

新しい豊かさを作る～世界の地域づくりから学ぼう（3回連続）

講師：中野佳裕（早稲田大学）

6/21 「ヴァンダナ・シヴァ いのちの種を抱きしめて」36名参加

8/23 「おいしい、きれいな、正しい～イタリア発スローフードの挑戦」34名参加

10/18 「住民発・持続していく地域を作る～トランジション・タウンの活動を例に」34名参加

・ロカ女ゼミ公開講座

12/13 「未来を変える食卓をつくる～スローフードの可能性～取材から見えてきたこと」講師：島村菜津（ノンフィクション作家）29名参加

2/28 「子どもが学べる地域の菜園を学校に！～エディブル・スクールヤードの挑戦」講師：西村和代（ESYJ共同代表）23名参加

5/22 オンライン講演会「明るい覚悟、そして……」講師：落合恵子（作家）148名参加

・ワークショップ

11/28 収穫祭～ファシリテーター：齊藤由香 参加者13名

・オトナ女子のすこやかづくり講座

9回開催、参加者延べ89人。講師とテーマ：高橋孝子（女性のからだ）、金澤南都子（足つば）、川崎友子（食養生）、長野弥生（女性ホルモン）、西羅美流（鍼灸）



ロカ女ゼミ連続講座 新しい豊かさを作る～世界の地域づくりから学ぼう



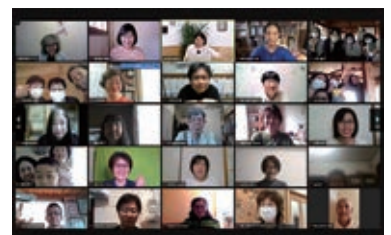
ロカ女ゼミ公開講座 未来を変える食卓をつくる～スローフードの可能性～取材から見えてきたこと



オトナ女子のすこやかづくり



ロカ女ゼミ公開講座 子どもが学べる地域の菜園を学校に！～エディブル・スクールヤードの挑戦



オンライン講演会「明るい覚悟、そして……」講師と参加者で記念撮影

発信～言葉を磨き、影響を与える

2013～2018年に開催したグラスルーツ・アカデミー東北参加者たちがオンラインで草の根の活動のリアルと歩み続けるモチベーションを語り、自分の考えを発信する機会を作りました。

トークサロンでは、ファシリテーターと共に話の組み立てを行い言葉に落とすことで本人たちの自信が深まったと同時に、聴衆を動かす力にもなりました。例えば、福島で障害者福祉に取り組む女性の話は、同様の取り組みをやってみたいが何から始めて良いかわからなかった若い女性への大きな励ましになったといえます。「地域での女性の活躍に注目している」という男性の参加が多く見られたのも特徴的でした。

ウェビナーでは、WEによるストーリーテリングのトレーニングを積んだ6人が、同時通訳付きで世界への発信に挑戦しました。米国、ペルー、トルコ、アルゼンチン、フィリピン、韓国、スペインなどからの参加があり、東日本大震災から10年の歩みの中で地域の女性たちが何を思いどう動いてきたのか伝えることができ、共感を持って迎えられました。

●データ

- オンライン・トークサロン
ファシリテーター：田浦佐知子（ウィ）
6/18 対馬良美（宮城 キッズドア東北）参加22名
7/28 手塚さやか（岩手 フリーランス）参加10名
8/27 阿部美和（福島 カフェ桑の実）参加15名
- 東北の女性たちによるストーリーテリング『災害とレジリエンス』
4/11日・英同時通訳付きウェビナー 視聴者約140名
発表者：佐藤美代子（岩手 （特非）まんまるママいって代表）、神谷未生（岩手（一社）おらが大槌夢広場代表理事）、天澤寛子（宮城（特非）浜わらす事務局）、三浦千草（気仙沼市役所職員）、佐原真紀（福島市議会議員）、長島楓（元・朗読サークル「種まきうさぎ」）
共催：enjoy多様性と革新
コメンテーター：地震学者ルーシー・ジョーンズ博士、米日財団理事長ジェームズ・ユラック博士
協力：米日財団、potentia、TOMODACHIイニシアチブ、JWLI ECOSYSTEM、Dr. Lucy Jones Center for science and society



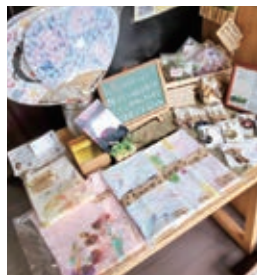
オンライン・トークサロン



東北の女性たちによるストーリーテリング『災害とレジリエンス』

少額助成 ～コミュニティ・アクション

地域で「一歩踏み出す女性たち」が新たに生まれ続ける循環を作るために、前年に引き続き、自らのプロジェクトを初めて行う若年女性たちへの少額助成「コミュニティ・アクション」を実施。1件あたり10万円までの助成金と、プロジェクト遂行の伴走、メンタリングを通じて6名が報告書作成までの活動を完了しました。また、オンライン交流会を通じた横のつながり作りも行いました。



●データ

2020年度の新規応募2件、2019年度からの継続活動5件。
助成事業の内訳：登米市 親子イベント／東京都 若者のコミュニティキャンプ／大船渡市 障がいママのママカフェと交流／東松島市 コロナからお店を守る未来チケット／気仙沼市 不登校の子どもたちのための旅する学校／福島県桑折町 子育て中の人たちに向けたコミュニティカフェ
1/21 「コミュニティ・アクション」実行者交流会 参加者5名

ウェブメディア

本プロジェクトのウェブメディア「COMADO」の制作を開始しました（公開は2021年7月、デザインは、気仙沼のデザイン会社ペンシー）。2020



<https://comado.womenseye.net>

年度は「ローカル女子100人インタビュー」として、草の根で活動する若手女性たちが自身の変化について語るインタビューとアンケートを23名分実施。駆け出しのライター、カメラマンとして活動をしている地元の女性たちも制作に参加しています。2/22にはプロカメラマンを講師にオンラインで「人柄が出る写真を撮るポートレート講座」を開催しました。



ローカル女子100人インタビュー、左から鈴木歩さん（気仙沼）、齋藤寛子さん（石巻）、天澤寛子さん（気仙沼）

国際交流活動～映画プロジェクト日本語版完成

チリ&アルゼンチンのプロデューサー・制作チームとともに進めてきたドキュメンタリー・フィルムのプロジェクト第1弾「TSUNAMI LADIES～日本とチリ、海を越えた女性たちの物語～」。スペイン語版、英語版に続いてナレーションをウィの石本が担当した日本語版ができました。3/7には完成を祝って、日本とチリをライブでつなぎ、オンライン上映・出演者トークイベントを開催。日本側からは映画に登場した南三陸町の阿部民子さん（たみこの海パック）、松野三枝子さん（松野屋）、大沼あかねさん（自然卵のクレープ）が登壇。独立行政法人国際協力機構(JICA)代表および、

国連防災機関(UNDRR)駐日事務所代表松岡由希氏もご参加くださいました。

企画：アルト・リオ財団、NPO法人ウィメンズアイ、パシフィック社／協力：国際協力機構(JICA)、国連防災機関(UNDRR)駐日事務所、チリ大使館

なお、本ドキュメンタリープログラムについて、国連防災機関(UNDRR)が運営する仙台防災枠組ボランティア・コミットメントオンラインプラットフォームに掲載されました。(英語のみ)

https://sendaicommitments.undrr.org/commitments/20210203_001

日本語版ホームページ <https://www.tsunami-ladies.com/jp/>



宮城における、ジェンダー平等評価指標作成とSDGs勉強会

草の根女性のエンパワーメントに関連する取り組みとして、ローカルでの女性活躍の環境づくりがあります。今年度はNPO法人「人間の安全保障」フォーラムとの協働で、宮城県内市町村におけるSDGsへの対応、特にNO.5「ジェンダー平等を実現する」を測る評価指標を策定するワーキンググループをコーディネートしました。のべ50名が参加した5回の会合では、研究者や、他団体の代表などで活発な議論を行いました。この成果は、冊子などの形で公表する予定です。また、気仙沼市を始め、宮城県内の自治体や希望するグループに対して「SDGsとジェンダー」についてのセミナーを開催し啓発に努めたことから、次年度以降の活動につながる素地ができました。

●データ

- ・「気仙沼SDGs勉強会」コーディネート(石本)2回開催のべ32名参加
- 10/16 NPO法人「人間の安全保障」フォーラム主催「SDGsと気仙沼勉強会～誰も取り残されないまちを実現するためにどう取り組むべきか～」に登壇
- 12/14 宮城学院女子大学2020年度6回公開研究会「SDGsとみやぎの女性・地域子ども学と持続可能性の視点から」講演
- 3/23 宮城県の人間の安全保障指標発表会 - 「誰も取り残されない宮城」に向かって何をすべきか? 登壇
- 5/21 みやぎ生協理事へのレクチャー「宮城県のSDGsとジェンダーの課題」
- 4/1 朝日新聞朝刊の記事「男女格差解消 挑む自治体～身近な男女別データ可視化必要～」、「SDGsとみやぎ」女性指標ワーキンググループの活動取材、男女別データの開示や目標や期限の設定の重要性について石本のコメントが掲載された。

調査活動

コロナ禍における緊急プロジェクト～シングルマザー調査

新型コロナウイルスが蔓延し始めた2020年6月より、認定NPO法人しんぐるまざあ・ふぉーらむをはじめ、ジェンダーや子どもの貧困を専門とする研究者などと共同で主題のプロジェクトを開始。ひとり親世帯や低所得の世帯への追加給付金の実現に向けて、1年間データ収集を行いました。

2020年7月には約1800人を対象に大規模調査を実施し、その結果を「新型コロナウイルス 深刻化する母子世帯の暮らしー1800人の実態調査・速報」として発表。翌月8月より、毎月539名を対象としたパネル調査を開始。毎月調査を開始してから、これまでに3つの課題別レポートを発表してきました。2020年度内には記者会見を3回行い、主要メディアを含む21媒体が調査内容を報道したことで、母子世帯が置かれている状況を少しでも多くの人に知ってもらえることができました。

●データ

- ・4/25 シングルマザー調査プロジェクトによる課題別レポート「コロナ禍におけるひとり親世帯の子どもの状況」記者発表に登壇(石本)
- ・『ジェンダー研究』24号にシングルマザー調査に関して石本・五十嵐が寄稿(発行:2021年秋)
- ・『月刊保団連』2021年9月号へシングルマザー調査に関して石本・五十嵐が寄稿(発行:2021年9月)
- 11/12 カナダ大使館オンラインイベント「ジェンダーと多様性、コロナウイルスの脆弱性(原題: "Gender, Diversity and COVID19 Vulnerabilities")」にてシングルマザー調査に関して石本・五十嵐が講演



*これらの活動にはチャネル財団、WAN基金、キャピタル・インターナショナル株式会社の助成をいただきました

南三陸拠点での女性のエンパワーメント事業

南三陸・気仙沼

南三陸拠点を中心にした活動もまた、COVID-19の影響を大きく受けた年でした。対面の活動が難しい時期があったものの、この機に拠点のIT関連設備を充実させ、オンラインを通じた活動の充実に活かしました。また、2017年秋から続けている拠点でのヨガ教室は、コロナ禍の自粛生活だからこそその心身の健やかづくりのため、少人数で感染対策をとりながら活動を継続しました。

南三陸拠点整備～誰でも使えるコワーキングIT拠点「モリドマ」

ウィ南三陸拠点に高速通信・複数のデバイスに対応したルーター、貸し出し用パソコン、スクリーン、スピーカー、机と椅子を設置して環境を整備。誰でも使えるコワーキングIT拠点「モリドマ」という名前で開放しました。特に、自宅でのIT活用が難しい女性たちのために、インターネット利用可能な場所としてオンライン講座受講の機会を提供することができるようになりました。町内他事業者と協力して作成したパンフレットに掲載したことで、地元のみなさんが以前より安心して立ち寄りやすくなりました。

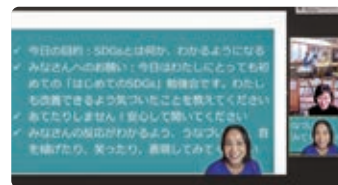
●データ

- ・ウィ主催の講座でのオンライン会場利用者数6回のべ17名
 - ・ウィ主催オンラインイベント配信スタジオとしての利用2回 登壇者のべ8名
 - ・個別ITサポート随時実施
 - ・ヨガ教室25回開催、のべ123名参加
- *女性のコワーキングスペース事業には南三陸町公募型補助金を活用しました

南三陸杉を使った温かみのある空間



オンライン講座にも気軽に参加できる



女性のしごと相談事業(就職支援拠点事業)

南三陸町・気仙沼市でこれまでウィメンズアイによる「女性の相談窓口」の案内カードを設置・配布してきたことで、「何かあれば、相談できる場所があると思っている」、「以前このカードをもらっていたので、今回相談しようと思った」などの声が聞かれるなど、支援の周知が進んできました。そのためか、今年度は社会的に孤立しがちな女性からの問い合わせが以前よりも多く見られました。気仙沼市ではハローワークと連携でき、就労相談者をハローワークの求人窓口につなげるなど、よりスムーズな支援が行えました。

また、気仙沼市において、他団体と連携して女性の働き方について考える男女共同参画推進セミナーを開催。子育て中の女性たち、個人事業主、NPOスタッフ、行政職員などが集まり、子育てによる環境や心境の変化、子育てと仕事の両立の困難などを軸に対話したことが地元紙に取り上げられ、女性の就労や起業に障害があるという地域課題に関心を高めることができました。

●データ

- ・相談窓口
相談対応件数のべ25件（産業カウンセラー、国家資格キャリアコンサルタント2名で対応）
- ・男女共同参画推進に関するセミナー
9/28「女性のたらくを話そう」（参加者15名、子ども8名 託児）主催：NPO法人ウィメンズアイ 共催：一般社団法人トナリノ企画部（陸前高田市）、けせんぬま森のおさんぽ会（気仙沼市）、気仙沼まち大学運営協議会（気仙沼市）
- ・情報収集と情報発信
女性のしごと相談窓口相談員によるかわら版「yukimichiだより」を各50部、8回発行。
LINE@での情報配信8回 登録者71名

*この事業には宮城県NPO等の絆力を活かした震災復興支援事業補助金を活用しました



南三陸町でのコミュニティ活動と地域づくり

地域の女性たちとともに、まちを育てる。震災から10年を迎えた南三陸町でのウィはより積極的にまちづくりの活動に参画しました。

*これらの活動はみやぎ地域復興支援助成金を活用して実施しました

小さなたがい市～高台での出張ミニマルシェ

シニアが多い復興公営住宅地区などでの「小さなたがい市」。今年度は感染防止対策で開始を9月に遅らせ、4回開催しました。自治会集会所を半年近く閉鎖していた地区もあり、高齢者の引きこもりと認知症の悪化が懸念される中で始めた市では、久しぶりの住民交流と買い物のニーズに応えることができました。社協の住民ボランティア制度「ほっとバンク」メンバーが運営に積極的に参加して住民同士が声を掛け合い、移動手段がない高齢者のために車を出すなど、イベントを機に共助の空気が生まれています。男性の来場者が設営に加わる、地元の高校生が出店するなどの嬉しい変化も起きました。南三陸町社会福祉協議会との協働でウィが主催してきた市ですが、助成金が終了する次年度以降は出店者の実行委員会形式で継続していくことに決めました。震災後にできた新しい地域コミュニティを支える仕組みを残すことができたことは大きな成果です。

●データ

- 9/18志津川西地区（出店数6、参加者63名）、10/9戸倉・沖田地区（出店数6、参加者86名）、11/4入谷地区（出店数6、参加者74名）、4/16結の里（出店数7、参加者63名）
- 1月 出店者による振り返り会 出席者9名
- 3月「小さなたがい市かわら版」2000部発行。復興公営住宅、高台造成地区の住民、出店者、町内関係者に配布。



南三陸みんなの子そだてフェスタ

コロナ禍の中、恒例の子そだてフェスタをどうするか。昨年度からこのイベントの運営に参加している子育て中の女性たちと一緒に知恵を絞り、少人数分散型イベントの企画を立て、アイデア出しから終了後の振り返りまで行いました。結果的に、子育て中の女性たちが普段は出会うことのない町内のさまざまな人たちと言葉を交わすきっかけになりました。こんな状況下でしたが「



これまでも何度も参加しているので子どもと安心して参加できる」という声があり、ウィが子そだてイベントを継続してきたことで信頼が醸成されていることが窺えました。

●データ

子育てをテーマとする多世代交流～「第6回南三陸みんなの子そだてフェスタ」少人数分散型のイベントとして5回開催。

- 10/11（日）ママ・パパの休憩時間（マッサージ）参加者数6名
- 10/24（土）かまぼこ工場見学、花見山散策 参加者数7名
- 11/1（日）弘川の古民家体験、田東山散策 参加者数15名
- 11/8（日）森の小学校（自然体験）参加者数3名
- 11/22（日）工作教室（紙粘土）参加者数5名

地域コミュニティのサポート、テーマ型コミュニティ育成

今年度はまちづくり協議会ははじめ町内まちづくり団体との連携活動に多数参加し、これまで培ったつながりをいかして、企画づくりに新たに貢献することができました。

一方、コロナ禍につき、ウィ主催の食関連イベントは全て中止としました。



●データ

- リアンの会（刺し子サークル）21回開催 のべ76名参加
- 「南三陸棒ものがたり」（地域住民による復興プロジェクト）10月の南三陸町震災復興祈念公園でのつばきの植樹祭に参加
- 「さんさんポートプロジェクト」（志津川地区まちづくり協議会の呼びかけで始まった南三陸町震災祈念公園と周辺エリアのまちづくりをテーマにした企業・団体・町の連携活動）計5回会合参加
- 「しおさい通りにぎわいづくり検討委員会」（町が主催する新たな商業エリアの開発検討会）計4回ワークショップ参加
- 「南三陸町里山交流促進協議会」（入谷地区の地域課題解決・地域振興のために町と地域住民・団体の連携）体験交流ワーキンググループ、食のワーキンググループに参画。8月、里山ランチプロジェクトの事前研修会をコーディネート
- 4月より、南三陸町入谷地区の町有施設「ひころの里」の指定管理者「ひころの里コンソーシアム」にひころマルシェをはじめとするイベントなどの企画開発担当として参画。

うみさと暮らしのラボ

里山・里海の資源をいかす小さな仕事とネットワークづくり

《*パン・菓子工房 oui》

2020年7月、屋号「おやつのかん」でシェア工房利用してきた女性が登米市に夫婦でレストラン「soeru」をオープン、パンの製造・販売を始めました。2015年3月の登録以来、出産・育児を経て2019年秋からは週2回の頻度でパンの製造・販売を行って技術を向上させました。このことが、他の利用者たちにも刺激になっています。シェア工房利用者たちによる共同販売会は、ドライブス

ル形式を取り入れ2回開催し好評を博しました。利用登録は、2021年3月更新時点で7名です。ウィのパン事業はイベント出店ができなかった一方、新たに通販事業にチャレンジしました。また、遠出をはばかる風潮で地元での工房直販のニーズが高まったことから製造販売日を週2日から週3日に。地元の女性の雇用を増やすことができました。

《ひころマルシェ事務局》

イベントは中止し、「ひころマルシェ2020年初夏」をオンライン開催しました。

YouTube「うみさと暮らしのラボ」チャンネルでアーカイブ配信中
<https://www.youtube.com/watch?v=cE0w9XHe2T4&t=845s>

講演・寄稿・インタビュー

4月、国立女性教育会館（NVEC）主催、令和3年度地域における男女共同参画推進リーダー研修に石本・栗林が講師を務めました。
https://www.nvec.jp/event/training/g_leader2021.html

*代表 石本めぐみによる登壇・講演

Women's International Networking Leadership Seminar & Workshop
 スピーカー／札幌男女共同参画センター主催：北海道内の女性起業家のプレゼン研修講師／日経SDGsフォーラム特別シンポジウム「震災から10年～持続可能な未来へ～」パネルディスカッション「市民力で切り開く東北の未来」／ほか

*事務局長 栗林美知子による登壇・講演

復興庁「新しい東北」官民連携推進協議会主催交流会のパネルディスカッション／ほか

*寄稿・インタビュー

- ・ブリティッシュ・コロンビア大学博物館「記憶のための未来—東日本大震災後のアートと暮らし」展図録寄稿（石本・塩本）
- ・ジャパン・ソサエティwebプログラム「Tea Time」インタビュー動画（石本）
- ・ウェブメディア Brut Japan インタビュー動画（石本）
- ・宮城県サポートセンター支援事務所発行「東日本大震災宮城県100の提言—ともに生きる想いを紡ぐ言葉—」寄稿（栗林）
- ・（一社）全国日本学士会会誌ACADEMIA4月号特集「東日本大震災から10年目を迎えて—女性視点から考える三陸沿岸の未来—」寄稿（塩本）
- ・書籍「復興から学ぶ市民参加型のまちづくり パート3コミュニティ・プレイスとパートナーシップ」第2章 被災地におけるローカル女性とコミュニティのエンパワーメント—NPO法人ウィメンズアイの事例執筆（栗林・塩本）ほか

広報、イベント

人が集まる活動は自粛し、オンラインでの活動報告会、広報イベントを開催しました。

7/27 2019年度活動報告会 (zoom)

7/17 設立8周年 WEサポーター交流会 (zoom)

4/18 三陸ワカメまつり オンライン開催



ブックレット刊行

・ウィメンズアイのこれまでの10年の歩みをまとめたエンパワメント・ブックレット「ローカル女子と未来をひらく〜災害復興と女性のエンパワーメント2011-2020」を制作しました（刊行2021年9月）。市民として参加した災害救援ボランティアたちがなぜ、女性のエンパワーメント活動に舵を切ることになったのか。地域の女性たちの話を聞き、ともに活動する中で見えてきた課題と問題意識、つくり出してきた取り組みを振り返っています。

*ご希望の方に有償（1冊500円+送料）でお分けいたしております。タイトルに「ブックレット希望」と明記の上、info@womenseye.netまでご連絡ください。

B5判 カラー 本文52頁+表紙／編集 小島まき子、塩本美紀／デザイン 桜田ゆかり／表紙写真 古里裕美



2020年度決算報告(概要) 2020年6月1日～2021年5月31日

(単位:円)

経常収益	25,202,314
助成金・補助金	16,770,409
自治体からの助成金・補助金（*1）	4,665,000
民間からの助成金など（*2）	12,105,409
寄付	3,023,109
一般寄付（*3）	2,586,709
プロジェクト指定寄付（*4）	436,400
事業	4,908,093
交流事業	34,650
人材育成事業	203,450
うみさと暮らしのラボ事業	241,820
広報事業	114,613
うみさと暮らしのラボ事業（パン菓子工房事業）	4,313,560
その他	500,703

*1 内訳：みやぎ地域復興支援助成金、宮城県NPO等の絆力を活かした震災復興支援事業補助金、南三陸町公募型補助金、持続化給付金

*2 内訳：シャネル財団、米日財団

*3 寄付者名簿（5万円以上）はホームページにて掲載しております。

*4 新型コロナウイルス緊急支援事業

経常費用	22,146,198
プロジェクト費	21,251,018
交流事業	957,906
人材育成事業	11,309,387
うみさと暮らしのラボ事業	179,351
うみさと暮らしのラボ事業（パン菓子工房事業）	5,620,619
広報事業	109,846
調査事業	2,852,889
災害救援事業	221,020
管理費	895,180
当期経常増減額	3,056,116
経常外収益	172,800
経常外費用	180,872
法人税、住民税及び事業税	72,000
当期正味財産増減額	2,976,044
前期繰越正味財産額	4,480,875
次期繰越正味財産額（*5）	7,456,919

*5 複数年度にまたがる事業へ助成金などが含まれます



Message from Women's eye この1年

震災から10年、WEのビジョンとミッションを新しくしました。
WEと、ともに活動する女性たちが大事にしてきたのは、人と生きものたちを育む環境に配慮した暮らし方、災害から命をまもる生き方でした。わたしたちが暮らす地域コミュニティたちが、「あたりまえ」や「そういうものだ」という声に表される阻害を超えて、地域を足元から変えていこうとする勇気を持ち、声をあげ、行動をしていく。WEと仲間たちの現在ですが近い未来、そんな女性たちがフルパワーでおもいっきり自分をいかして、いのちと暮らしを守る地域の先導者になっていること、さらにより良い地域をつくっていく女性たちの姿がわたしたちのビジョンです。そのために、WEはこれまで通り、そしてよりいっそう、地域の女性たちと地域社会をつなぎ、地域の女性たちをエンパワーし、地域の女性たちの声を拾っては広げ、地域内外につないでいくミッションを果たしていきます。

国連が提唱するSDGsが2030年までに実現しようと目指すのは、「すべての人々の人権を実現し、ジェンダー平等とすべての女性と女の子のエンパワーメントが達成された」⁽¹⁾社会であり、「私たちの誰もが貧困や欠乏を恐れることなく、私たちが地球を癒し安全にすることが、安心して自信を持って連帯して自分が持つ可能性を発揮できる地域社会こそ、WEのビジョンであり、SDGsが目指す8年後の地域社会の姿なのです。

(1)SDGsが発表された国連採択文章の前文

石本めぐみ

WEのビジョン

いのちと暮らしを真ん中に
自分をいかし歩み続ける女性たち

WEのミッション

地域女性と地域社会をつなぐ
地域女性のエンパワーメント
地域女性の声を内外に伝える

東日本大震災後の復興支援の経験から、
地域が続いていくために女性の元気が欠かせないと気づきました。
私たちの活動は皆様に支えられています。
どうか、ウィメンズアイを応援してください。

クレジット決済寄付

寄付サイト Syncable を通してお手続きいただけます。マンスリーサポーター（毎月定額寄付）、あるいは今回のみ寄付をお選びください。

<https://womenseye.net/support>

寄付サイト Give one から、ウィの「女性と女の子の相談窓口」への寄付ができます（寄付金控除など税制優遇対象）

<https://giveone.net/index.html>

振込による寄付

右記連絡先宛に、お名前、ご連絡先、お振込予定日、領収書の宛名をご一報ください。

振込口座

〈銀行の場合〉

ゆうちょ銀行

金融機関コード9900

店番:818

預金種目:普通 店名:ハチ八店(ハチイチハチ店) 口座名:特定非営利活動法人ウィメンズアイ

口座番号:1966320

〈郵便局からの場合〉

郵便振替口座:18190-19663201

口座名義:トクヒ)ウィメンズアイ



特定非営利活動法人ウィメンズアイ

Women's Eye

ホームページ

<https://womenseye.net>

Facebook

<https://www.facebook.com/Womenseye20130604/>

Twitter

<https://twitter.com/womenseye1>

住所 〒986-0782

宮城県本吉郡南三陸町入谷山の神平10-1

TEL 0226-25-9517

FAX 0226-25-9519

メール info@womenseye.net

○2020年度末(2021年5月31日)現在

正会員21名

スタッフ総勢:8名 ボランティア参加者数:年間のべ12名

事務局長 栗林美知子

○役員一覧

代表理事 石本めぐみ

副代表理事 橋高真佐美(弁護士)

理事 西村和代(株)カラースジャパン代表)

理事 清野浩司(中小企業診断士)

理事 塩本美紀(編集者・ライター)

理事 田島誠(認定NPO法人環境エネルギー政策研究所)

理事 田浦佐知子(研修ファシリテーター) (2020年度末退任)

理事 工藤真弓(南三陸町 上山八幡宮 檀宜)

監事 成田由加里(公認会計士・税理士)

